

イ ワ ガ ネ グ モ 雑 記

白 甲 鏞

朝鮮大邱府横町20

Note on *Eresus niger* Petagna from Corea
, and Manchukuo. By **Haku K. Y.**

I

イワガネグモ (*Eresus niger* Petagna) は1931年に朝鮮(開城の緒方洪基氏採集)と満洲(安東の藤田謹次氏採集——但し報文を發表したのは金丸久氏が最初である)で殆ど同時に採集せられて大いに學者の興味を惹いたところであるが其の後満洲では大連・奉天等各地で多數採集せられて今日では南滿には普通に産することが明かになつた。一方朝鮮では筆者の寡聞のせいか緒方洪基氏の採集以後本種を採集したといふことを聞いたことがない。所が偶然にも私は朝鮮の大邱で本種の♂1頭を採集することが出来たのでこゝに大邱を朝鮮に於ける本種の第二番目の採集地として報じておくと共に以下此の標本に就て聊か述べようと思ふ次第である。

II

イワガネグモ *Eresus niger* Petagna

測定 (單位 m. m.)

標 番 本 號	性	體長	總長	背 甲		腹 部		觸肢	步 脚			
				長サ	幅	長サ	幅		I	II	III	IV
				—	4.3	6.0	4.5		—	10.5	9.0	8.0

〔註 總長とは上顎まで加へて計つたときの體全長を意味す〕

採集地 : 朝鮮慶北大邱府外前山

採集日 : V. 22. 1935

採集者 : Haku, K. Y.

本標本は前記前山にて岩屑の積つて居る所で採集したのであるが、そのときは餘りの美しさに只逃すまいとしてあわてゝ採集してしまつたのでその生態に就ては何も觀察することが出来なかつた。今此の標本を歐洲産の本種に就ての E. Nielsen 氏の記載と比較するに次の點に於て相異して居る。

(1) E. Nielsen 氏の記載並に圖版には♂腹背の黒圓紋が明かに6箇あるが私の標本では明かに4箇のみである。

(2) E. Nielsen 氏の記載及圖版でも金丸久氏の挿畫でも♂腹背黒圓紋の周圍は明かに白色の毛で縁取られて居るが私の標本では之が全然ない。

以上二つの相異點の中(1)の黒圓紋の數については金丸久氏は「4個(又は6個)ある」と記載せられたが同氏よりの私信に依れば氏は是迄見られた標本(滿洲産)は皆4個の紋を有するものばかりであつたとのことである。

故に是迄の所鮮滿で採集せられた標本は皆4個の腹背黒圓紋を有するものばかりであつたと言へる。併し斯様な紋は變異性に富む場合が多いから將來6個の紋のあるものが採集されることもあらう。或は既に斯かる標本を所藏せられて居る方が在るかも知れない。果して6紋を有するものが鮮滿に産するかどうか? 亦6紋を有するものが産するとすれば4紋を有するものとの個體數の割合はどうであり其の紋は如何なる程度の變異性を有するものであるか? 之等の點に就ては將來の調査に俟たねばならない。

何れにせよ私の考へでは是迄に採集せられたものが皆4個の紋を有して居たことから推して鮮滿産のものは4個の腹背黒圓紋を有する型が最も多いのではないかと思ふ。

III

金丸久氏からの私信に據れば滿洲に於ては♂は五月の初め頃から出現し ♀は

其れより稍遅れて出現するさうで同氏が飼育して居られる♀は「なるべく暗い石の間等に入つて簡単な粗末な巢を拵へて入つて居る」とのことであり飼料としては毎日蠅をやつて居られるさうである。之の生態に關しては今金丸久氏が雌雄を飼育觀察して居られるさうであるからいづれ同氏に依つて精しいことが發表せられると思ふ。尙和名の由來に就ては岸田氏の記事があるから（小松榮原色大日本蜘蛛類圖説 上巻）こゝでは割愛しておく。

主 要 参 照 文 獻

1. 金丸久；イワガネグモ (*Eresus nigra* Petagna) について；滿洲博物同好會會報 1934；No. 4；P. 38 — 40；fig. 2
2. E. Nielsen；The Biology of Spiders；1931；Vol. I；P. 72 — 74；Vol. II；Plate V, fig. 6
3. 〔植村利夫〕 朝鮮の蜘蛛；Acta Arachnologica；Vol. I；No. 4；P. 156

終りに本文を草するに當り直接間接に種々御便宜を賜はりたる金丸久氏高島春雄氏植村利夫氏の諸氏に對して深甚の謝意を捧げる。（1937. 7. 19日記す）

お 願 ひ

私は今後此のイワガネグモの多數の標本に就て 其の腹背黒圓紋の變異を調べようと思つて居りますから次の諸項について各地の會員諸氏の御援助を御願ひ致します。

(1) イワガネグモの雌雄標本の惠贈若しくは交換。

(2) どうしても手離したくないと言ふ場合は上記紋について 簡單なる記載だけでも結構ですからは非御一報を乞ひます。

原 稿 募 集

本誌 VOL. II. NO. II (次號) の原稿を募集します。〆切は10月25日限り。大急ぎで御寄稿下さい。一日でも遅れたら來年まで延びますから御了承下さい。大論文も結構ですが簡單な觀察記でも大いに歡迎致します。例へば加藤正世氏の「みだれかご」尾崎光太郎氏の御通信など短いけれども非常に讀んで有益な手本だと思います。特に地方在住の會員にはこうした材料が無限に提供されてゐる筈です。御遠慮なく大いに御寄稿下さる様切望致します。（植村利夫記）